

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 応用分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------|-----------------------------------------------------|------------|--------------------------------|---------------|
| 科目名 | 問題集(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 40 (2) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下 修 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 N2の復習を入れながらN1の問題を数多く当たる。12月の日本語能力試験N1合格を目指し、文字・語彙、文法、読解、聴解の問題を数多くこなしていく。能力試験では選択肢があるが、N2レベルまでは漢字の読み書き、読解の解答では、それに頼らず自分で記述できるような力をつけ、将来の就職を見据えての力をつける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 % | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 『日本語能力試験対策問題集、模擬試験』 『日本語能力試験対策N2、N1文法』(三修社)『ドリル&ドリルN2、N1』(ユニコム)『JLPT直前対策N2、N2、N1』(国書刊行会)、 日本留学試験過去問題(凡人社)、『実用日本語テスト過去問題集』、から抜粋、オリジナルハンドアウト使用。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 日本語能力試験や日本留学試験は選択式の問題ですが、選択肢がなくても答えがだせるように、いつも自分で考える癖をつけましょう。就職後、大学、大学院では自分で書ける、話せる力が必要です。12月の日本語能力試験ではN1に合格しましょう。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 N2までの勉強を疎かにしないでください。基礎が身についていなければ、運用力はつきません。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 弱点を見つける。日本語能力試験N3、N2レベルの復習 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | N3、N2文法、文字・語彙 日本留学試験 聴解 | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 弱点を見つける。日本語能力試験N3、N2レベルの復習 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | N3N、2文法、読解 日本留学試験 聴読解 | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 弱点を見つける。日本語能力試験N3、N2レベルの復習 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | N3、N2文法、聴解 日本留学試験 読解 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、文字・語彙(1) 日本留学試験 聴解 | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、読解(1) 日本留学試験 聴読解 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--------------------------------------------|------------|--------------------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 日本留学試験320以上を目指す | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、聴解(1) 日本留学試験 読解 | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、文字・語彙(2) | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、読解(2) | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N3文法、聴解(2) | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、文字・語彙(3) | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、読解(3) | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、聴解(3) | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、文字・語彙(4) | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、読解(4) | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験N1レベルの日本語力を修得する。 | 使用教材から適宜抜粋 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N1文法、聴解(4) | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 応用分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------|-------------|-----------------------------------------------------|----------|--------------------------------|---------------|
| 科目名 | 問題集(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 40 (2) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時間 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下 修 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 N2の復習を入れながらN1の問題を数多く当たる。12月の日本語能力試験N1合格を目指し、文字・語彙、文法、読解、聴解の問題を数多くこなしていく。能力試験では選択肢があるが、N2レベルまでは漢字の読み書き、読解の解答では、それに頼らず自分で記述できるような力をつけ、将来の就職を見据えての力をつける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験: 70 % 2. 出席率 : 20 % 3. 平常点 : 10 % | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 『日本語能力試験対策問題集、模擬試験』 『日本語能力試験対策N2、N1文法』(三修社)『ドリル&ドリルN2、N1』(ユニコム)『JLPT直前対策N2、N2、N1』(国書刊行会)、 日本留学試験過去問題(凡人社)、『実用日本語テスト過去問題集』、から抜粋、オリジナルハンドアウト使用。 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 日本語能力試験や日本留学試験は選択式の問題ですが、選択肢がなくても答えがだせるように、いつも自分で考える癖をつけましょう。就職後、大学、大学院では自分で書ける、話せる力が必要です。12月の日本語能力試験ではN1に合格しましょう。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 N2までの勉強を疎かにしないでください。基礎が身についていなければ、運用力はつきません。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第16回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | Jテストにチャレンジする(1) | Jテスト過去問題 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | 講義形式 | 各コマにおける授業予定 | N1レベル問題 | | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | Jテストにチャレンジする(2) | Jテスト過去問題 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | 講義形式 | 各コマにおける授業予定 | N1レベル問題 | | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | Jテストにチャレンジする(3) | Jテスト過去問題 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | 講義形式 | 各コマにおける授業予定 | N1レベル問題 | | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | Jテストにチャレンジする(4) | Jテスト過去問題 | わからない問題は確認すること。聴解、聴読解は聞きなおすこと。 | |
| | 講義形式 | 各コマにおける授業予定 | N1レベル問題 | | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 理解度を確認する。 | | | |
| | 講義形式 | 各コマにおける授業予定 | 日本語テストの実施 | | | |